



■表紙について

ジグソーパズルを組み立てる一つひとつのピースのように、ベストなソリューションで豊かな社会を支えていきたいという三菱UFJリースの思いを表しています。

 **三菱UFJリース株式会社**
MUFG

東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング
TEL 03-6865-3002
H P <http://www.lf.mufg.jp/>



三菱UFJリースはCSRレポートの印刷工程（原材料の調達～印刷工程）において発生するCO₂を、カーボンオフセットしています。
プロジェクト名：釜石地方森林組合による集約化施設（森林整備活動）を用いた温室効果ガス吸収事業～釜石市緑のシステム創造事業～
オフセット数量：3tCO₂
詳しくは当社ホームページをご覧ください。



印刷時に有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



管理森林から伐採した木材を使用して自然森林を守っています。



インキ中の石油系溶剤をすべて排除し、植物油（大豆油）に切り換えた環境配慮型水なしVOCフリーインキで印刷しました。※VOC（揮発性有機化合物:Volatile Organic Compounds）

色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような表示を配慮しました。

リース&ファイナンスの力で、豊かな社会を支え続けます。



2011
CSR Report
Corporate Social Responsibility

 **三菱UFJリース**
MUFG



コーポレートメッセージ

当社のコーポレートメッセージ「Value Integrator」には、「複数の有形・無形資産=現在価値 (Value) を、リース&ファイナンスという手法で統合 (Integrate) し、新たな価値を創造していく」という思いを込めています。

Value Integrator

三菱UFJリースは、ステークホルダーのみならず共に歩み、豊かな社会づくりに貢献します。

会社概要 (2011年3月31日現在)

<p>■ 商号 三菱UFJリース株式会社 (Mitsubishi UFJ Lease & Finance Company Limited)</p> <p>■ 本社 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号</p> <p>■ 設立 1971年4月12日</p> <p>■ 事業内容 各種物件のリース 各種物件の割賦販売 各種ファイナンス業務/国際業務 他</p>	<p>■ 資本金 33,196,047,500円</p> <p>■ 従業員数 2,245名(連結) 1,210名(単体)</p> <p>■ 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部</p> <p>■ 決算期 3月31日</p>
---	---

経営指標



INDEX

- コーポレートメッセージ…………… 1
- 会社概要…………… 2
- トップコミットメント…………… 3
- 三菱UFJリースのサービスとネットワーク…………… 5
- CSR経営の考え方…………… 7
- 特集 お客さまの最良のパートナーであるために…………… 9
- 特集 三菱UFJリースが考える物件所有者としての責任…………… 11
- 三菱UFJリースのCSR…………… 13
- お客さまとともに…………… 17
- 株主・投資家のみならずとともに…………… 19
- 社員とともに…………… 20
- 地域社会とともに…………… 23
- 環境のために…………… 25
- 三菱UFJリースグループネットワーク…………… 29



編集方針

本レポートは、三菱UFJリース及び三菱UFJリースグループが実践しているCSR活動をわかりやすくご理解いただくとともに、ステークホルダーのみならずコミュニケーションを促進するツールとして毎年制作しています。

CSRに関するさまざまな活動のご報告はもとより、総合ファイナンスカンパニーとして事業を通じて社会への貢献を目指す当社の姿勢をお伝えできるよう努めています。

また、本年度は特集として、バリューチェーン上の提供機能拡大に伴う近年の新たな取り組みをご紹介した「お客さまの最良のパートナーであるために」と、モノを扱うリース会社として果たすべき廃棄物削減への取り組みを扱った「三菱UFJリースが考える物件所有者としての責任」の2つを取り上げました。

ぜひとも忌憚ないご意見・ご感想をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

<p>■ 発行月 2011年7月</p> <p>■ 対象範囲 三菱UFJリース株式会社、及びグループ会社の取り組みを対象としています。</p>	<p>■ 対象期間 2010年度(2010年4月1日～2011年3月31日) (一部、対象期間外の活動を含んでいます)</p> <p>■ お問い合わせ先 三菱UFJリース株式会社 広報IR部 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング TEL 03-6865-3002 HP http://www.lf.mufg.jp/</p>
---	--

関連公表資料

当社の商品・サービス及び当社に関する各種情報につきましては、ホームページ上に掲載しておりますので、下記URLもご参照ください。

HP ▶ <http://www.lf.mufg.jp/>



CSRを意識した事業活動の推進によって 企業としての社会的責任を果たしていきます。



東日本大震災について

東日本大震災により被災されたみなさまに心からお見舞い申し上げますとともに、被災地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。

今回の震災は我が国が今まで経験したことがない規模のものであり、その影響は広範に及んでいます。この未曾有の困難に立ち向かうには、日本全体が一丸となり、復興活動を進め、そして新たな日本の形を築いていく必要があると考えております。

三菱UFJリースは、さまざまな形で地域社会や産業に深く関わっております。事業を推進することが、復興活動に繋がっていくとの思いを持ち、従来にも増してお客さまのニーズにお応えしてまいりたいと存じます。そのほか、義援金や社内募金、ボランティア活動など、復興支援につながることも積極的に取り組んでまいります。

事業活動を通じたCSR

三菱UFJリースはValue Integratorをコーポレートメッセージとして掲げ、リース&ファイナンスを通じ、お客さまの企業価値向上に貢献することを目指しております。お客さまのニーズに対応した商品サービスのご提供に加え、企業としての社会的責任を果たすことが、当社の使命であると考えています。

持続可能な社会を目指していくためには、CSRを基盤とした企業経営が重要です。当社がこの4月よりスタートした中期経営計画「Vision2013」においても、CSR重視の考え方は貫かれており、今後さらに強化していくつもりです。総合ファイナンスカンパニーの当社だからこそできる、事業を通じたCSR活動を、引き続き積極的に推進してまいります。

CSRを実現するための風土づくり

CSR活動を実践していくためには、社員一人ひとりが高い意識を持つことが重要です。三菱UFJリースでは、コンプライアンス、情報セキュリティ、環境教育など、CSRに関わる各種研修を定期的実施しております。また、ダイバーシティについての研修や各種制度づくりなどにも積極的に取り組み、働きやすく、互いを尊重するための風土づくりに努めております。

さらに、2010年度はこれらに加えて、社員が社会の一員であるという意識を育むために、新入社員を対象としたボランティア研修を実施しました。当社が掲げる行動指針を体現した取り組みを表彰する制度「クレドマイスター」においても、社会的責任への取り組みを重要視するなど、日々の業務の中でCSRを意識し、実践できる体制を整えております。今後もCSRを実現する風土を醸成するために、たゆまず努力してまいります。

ステークホルダーのみなさまとともに

三菱UFJリースでは、ステークホルダーのみなさまとの信頼関係をさらに確かなものとし、社会とともに発展していくことを目指しています。そのためにも当社を取り巻くすべてのステークホルダーのみなさまの声に真摯に耳を傾けながら、信頼と期待にお応えしてまいりたいと考えています。当社では、このCSRレポートをステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションツールと考えております。ぜひご一読いただき、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2011年7月

代表取締役社長

付田隆一

三菱UFJリースのサービスとネットワーク

国内外に広がるグループの総合力を活かして、お客さまに最適なソリューションをお届けします。

三菱UFJリースは、総合ファイナンスカンパニーとして、リース・レンタルに加え、不動産関連サービス、環境関連サービス、国際関連サービス、中古機器販売など幅広い商品・サービスを展開しています。ますます多様化・高度化するお客さまのニーズに対して、国内外に広がるグループネットワークや、長年培ってきたノウハウなど、

三菱UFJリースグループが持つ総合力を最大限に発揮して、最適なソリューションをお届けしていきます。リース&ファイナンスの手法を駆使して、モノやサービスといった現在価値を相互に結びつけ、未来価値に高めていくことが、Value Integratorをコーポレートメッセージとして掲げる三菱UFJリースの使命です。

主な商品サービス

三菱UFJリースの事業領域は、リースの枠を超えた進化を続けています。



ファイナンスリース

効率的な資金運用、事務管理のアウトソーシングによる業務効率の向上をサポートし、物件導入における新たな価値をご提供します。



オートリース・オートファイナンス

現状分析に基づいたコンサルティングにより、車両管理業務の合理化を図り、管理負担の軽減、コストコントロール、リスクの軽減など、最適な車両マネジメント体制の構築をサポートします。



オペレーティングリース

リース期間満了後の物件価値をあらかじめリース物件の元本から控除し、設備の導入コスト軽減を図ります。また、「生産ラインの合理化を図りたい」、「受注に応じて機動的に設備を導入したい」など、お客さまのさまざまなニーズにお応えします。

三菱UFJリース 海外ネットワーク

ホーチミン駐在員事務所
Ho Chi Minh City Representative Office

Mitsubishi UFJ Lease & Finance (Hong Kong) Limited

Mitsubishi UFJ Lease & Finance (China) Co. Ltd.

Mitsubishi UFJ Lease & Finance (Ireland) Limited

Bangkok Mitsubishi UFJ Lease Co., Ltd.

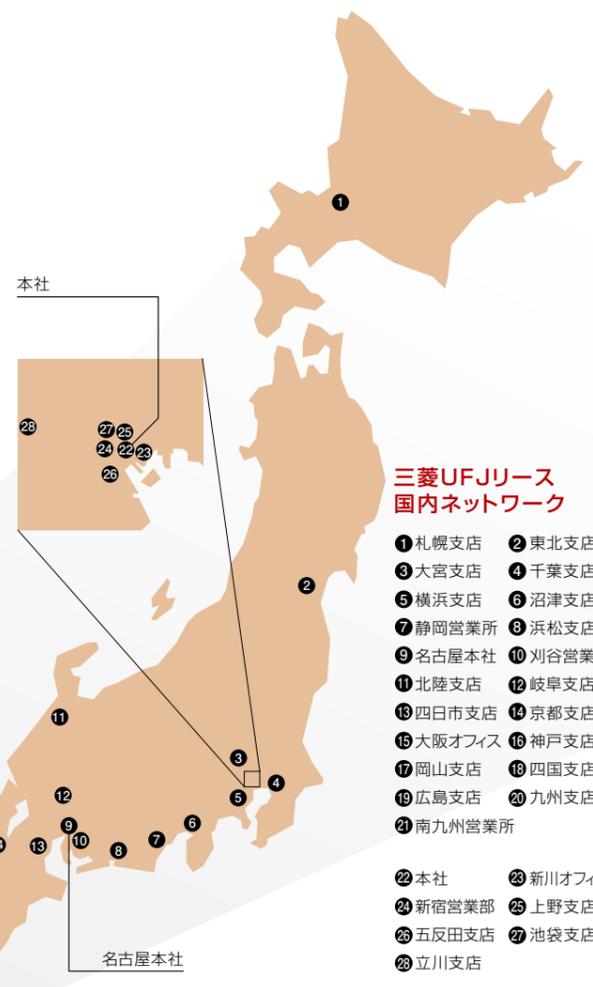
Mitsubishi UFJ Lease (Singapore) Pte. Ltd.

PT. Mitsubishi UFJ Lease & Finance Indonesia

Mitsubishi UFJ Lease & Finance (U.S.A.) Inc. <Los Angeles Branch>

Mitsubishi UFJ Lease & Finance (U.S.A.) Inc. <Head Office>

ニューヨーク駐在員事務所 New York Representative Office



レンタル

IT機器、工作機械、計測器のレンタルなど、三菱UFJリースグループの各種在庫や専門サービスにより、多種多様なレンタルニーズに対応します。



資産管理サービス

リースの見積りから契約・変更・満了手続きや情報照会など、一連の手続きをインターネット上で一元管理できる「e-Leasing Direct」をご提供します。各種フローをインターネット上で履歴化することで、内部統制対策としてもご利用いただけます。



国際関連サービス

海外での事業展開に必要な設備投資のファイナンスサポートや、貿易手続きのサポートなどを行っています。各国の法律や税制に基づき、最適なソリューションをご提案します。



医療関連サービス

最先端医療機器のリースから、診療報酬ファクタリング、新規開業支援、中古医療機器の売買に至るまで、病・医院運営をトータルにサポートします。



不動産関連サービス

事業用借地権を活用した「シンフォニー（建物リース）」や、商業、オフィス、物流用不動産を対象とした不動産関連ファイナンスなど、さまざまなサービスをご提供します。



PFI

社会資本整備に民間の資金・ノウハウを活用するPFI(Private Finance Initiative)。公共施設の整備運営に対するファイナンス提供から、プロジェクト全体のコーディネートまでサポートします。



中古機器売買

専門のグループ会社を通じて、半導体製造設備や工作機械、医療機器、情報関連機器などを取り扱い、機動的な設備導入をご希望とのお客さまをサポートします。また、リース満了物件の売却も行っていきます。



環境関連サービス

工場・ビルなどの省エネルギー化をご提案するESCO(Energy Service Company)事業をはじめ、排出権関連サービス、環境に優しいグリーン電力を利用したグリーンリースなど、各種環境ソリューションをご提供します。

CSR経営の考え方

環境・社会・経済における社会的責任に取り組み
すべてのステークホルダーから信頼され続ける企業に。

経営理念

お客様、株主様、社員からの信頼に応え、
豊かな社会の実現に貢献します。

- お客様にベストソリューションを提供し、
企業価値の持続的向上に努めます。
- 法令を遵守し、環境に配慮した企業活動を通じ、
地域・社会の発展に貢献します。
- 社員一人ひとりが意欲と誇りを持って
活躍できる環境を提供します。

経営理念

経営ビジョン

金融と商流を融合した事業金融分野で
圧倒的なリーダーを目指す。

高度で洗練された「事業金融機能」の提供を通じて、「モノ」、「サービス」、「情報」、「資金」、といった「財」を相互に結びつけるコーディネーターとなり、お客様にとって真に価値あるサービスを提供し、すべてのステークホルダーに貢献する企業であることが、三菱UFJリースの存在価値です。

経営ビジョン

行動指針

Vision 2013

行動指針

- 三菱UFJリースならではの
リスクテイク
金融機能と商社機能を持ち併せた
「三菱UFJリース」ならではのリスクテイク
- 課題解決に向けて果敢にチャレンジ
お客様の課題への嗅覚を磨き、
失敗を恐れず解決に向け果敢にチャレンジ

- 戦略を伴ったスピーディーな行動
様々な戦略に基づくスピーディーな行動
- ソリューションを実現する専門性
お客様の課題を解決する真に価値ある
ソリューションを実現する専門性の向上
- 社会的責任への真摯な取り組み
すべてのステークホルダーからの
信頼確立に向けた真摯な取り組み

Value Integrator

経営戦略

経営戦略

■ 経営戦略／成長戦略

- I バリューチェーン上の提供機能拡大と多様な
アセットリスク・事業リスクテイクによる
三菱UFJリースならではのサービス拡大
- II グローバルベースでの事業展開の加速
- III お客様接点の強化
- IV 外部成長戦略の推進

■ 経営戦略／経営基盤強化戦略

- I 経営管理の高度化
- II 営業力の強化と手法の高度化
- III 効率性の追求
- IV IT戦略の強化
- V 新たな企業風土の醸成
- VI 人材マネジメントの改革

ステークホルダー

お客さま



P17へ

お客さま満足度の向上のために、高い専門性と
チャレンジ精神を持って、多様な金融サービスを駆
使してお客さまの課題に最適なソリューションをご
提供します。

株主・ 投資家



P19へ

正確・公平・タイムリーな情報開示に取り組み、株
主・投資家のみならず、多様なステークホルダーとの対話を推進します。それ
により、経営の透明性を高め、企業価値の持続的
向上に努めます。

社員



P20へ

社員一人ひとりのキャリア形成や自己啓発を支援
し、人材の育成を図ります。また、誰もが誇りを持っ
ていきいきと働ける職場環境づくりを推進します。

地域社会・ 環境



P23・25へ

地域社会の一員として環境保全などの社会貢献活
動に積極的に取り組み、人・企業・環境が「共生」で
きる豊かな社会づくりに寄与します。

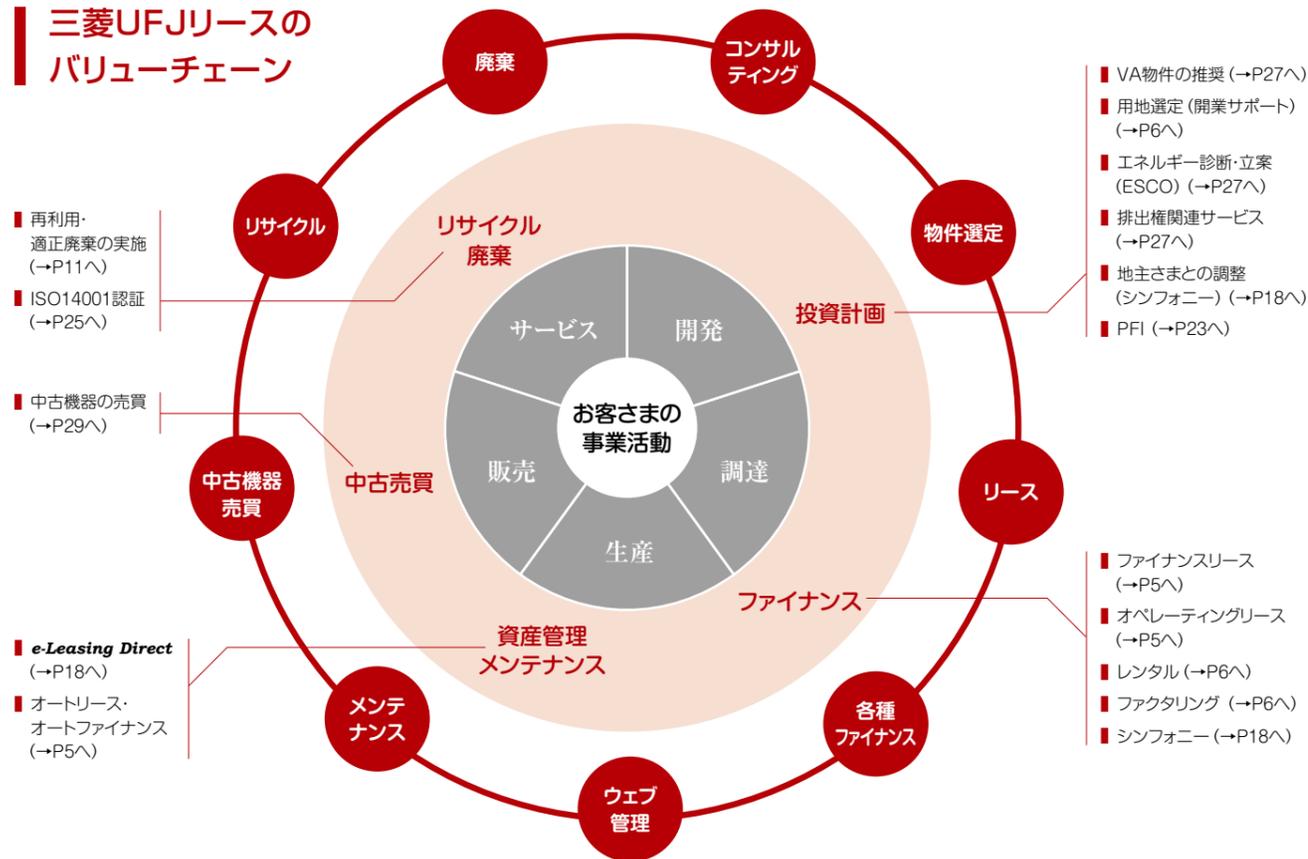
特集

お客さまの最良のパートナーであるために ～総合ファイナンスカンパニーとしての責任～

経済環境が目まぐるしく変化する中で、お客さまのニーズも多様化・高度化しています。三菱UFJリースでは、こうしたお客さまのニーズにお応えするために、バリューチェーン上の提供機能の拡大を進め

てきました。お客さまにとっての最良のパートナーであり続けるため、三菱UFJリースが行っている取り組みや商品サービスについて、具体例をいくつかご紹介します。

三菱UFJリースのバリューチェーン



経営戦略 重点課題

海外ネットワークの拡大 ～お客さまの販売戦略をサポート

世界規模での企業間競争や新興国市場の急拡大などを背景に、新たな事業展開を図るために海外に進出されるお客さまが増加しています。三菱UFJリースは、お客さまの海外事業戦略をお手伝いするパートナーとして、海外ネットワークの拡大とサービスの拡充を図っています。

特に成長の目覚ましいアジアは、活発な設備投資により、ファイナンスニーズが急速に高まっています。また、アジアでビジネスを行うお客さまの目的が、従来の生産拠点を築くための進出から、新たな市場を求めての進出へとシフトしている中で、お客さまの課題も多様化しています。

中国においてビジネスを行う多くの企業にとって、資金調達の多様化は重要な課題ですが、その際の有効な選択肢として、お客さまに当社のサービスをご活用いただけるように努めています。上海にあるMitsubishi UFJ Lease & Finance (China) では2008年の開設以来の3年間で、スタッフの数を約4倍に増やし、お客さまへのサポート体制を強化しました。また、2010年1月にはアジア大手金融会社のチャイリースと業務提携し、三菱UFJリース独自の海外拠点に加え、これらのアライアンスを活用してさまざまなニーズにお応えしています。



提供機能の拡大 ～マンション管理組合さまへのソリューション提供

- コンサルテイング
- 物件選定
- リース
- 各種ファイナンス

三菱UFJリースでは、お客さまそれぞれの状況やニーズに応じたソリューションをご提供しています。

三菱UFJリースでは7年前よりマンション管理組合さま向けのサービスを行っています。防犯カメラのリースから始まり、今ではAED(自動体外式除細動器)、宅配ロッカー、屋上設備に至るまで対象となる物件を拡大しています。サービスの種類や範囲も広がっており、現在では全国約8,000棟のマンションで当社のサービスが利用されています。

マンション設備の更新・導入には修繕積立金を取り崩すのが一般的ですが、当社のサービスをご利用いただくことで月々の管理費からリース料をまかなうことができます。積立金を取り崩すことなく、簡単な手続きで設備を導入できるとお客さまにご好評



いただいています。最近では、お客さまのご要望を受け、リース以外に分割払いの取り扱いも始めました。

VOICE 管理組合 理事長さまの声



管理組合 理事長
谷野 権雄様

当マンションでは、経年により劣化してきた窓サッシを、三菱UFJリースのサービスを利用して全世帯で一新しました。これまでの大規模修繕ではほかに優先すべき事項があったため、窓サッシは後回しになっていました。窓サッシ改修の話が出た当初は、借入をしてまで実施する必要はないとの意見も多かったのですが、リースを利用することで、月々のわずかな支払いにより新しい窓サッシを導入できることがわかり、改修に踏み切ることになりました。窓を複層ガラス窓に変えたことで、断熱効果により光熱費が低減されたほか、結露の防止や防音効果が高まるなど快適な暮らしを実現できています。このサービスがあって助かりました。

パートナーとの連携の強化 ～医療介護サービスのご提供

- 各種ファイナンス
- リース
- コンサルテイング
- 中古機器売買

三菱UFJリースでは、お客さまへのご提案やサービスを深化させるため、さまざまな分野でパートナーとの連携強化を進めています。

2011年1月に三菱UFJリース、琉球銀行、琉球リースの3社間で、医療介護分野についての業務提携を締結しました。両社とはこれまでも沖縄県内の医療機関・介護事業者へのサービスで協業してきましたが、この提携により、医療・介護分野におけるお客さまニーズに対して3社が協働して幅広いサービスをご提供できる体制となりました。それぞれが持つ金融商品やノウハウ、情報、ネットワークなどの強みを活用し、お客さまの課題を解決するためのよりきめ細かなソリューションをご提供していきます。

医療の充実が求められる中で、三菱UFJリースは、パートナーやグループ会社とも協力しながら、地域にとって必須の存在である医療機関



の経営を総合的にサポートし、地域医療・介護の質の向上に寄与していきます。

VOICE 提携先ご担当者さまの声



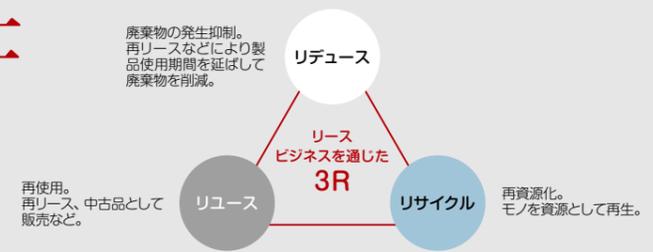
株式会社琉球リース
営業企画部長
崎山 喜久雄様

沖縄県の医療は、医師・看護師などの医療従事者の確保、離島・遠隔地の医療向上、経営の効率化などさまざまな課題を抱えています。今回、3社それぞれが持つ強みを活かした連携により、一社一社の枠を超えて医療機関の課題やニーズにお応えできるようになりました。資金調達に関しては当社のリースや琉球銀行のローンに三菱UFJリースのさまざまな商品(建物リース、診療報酬ファクタリング、省エネサービスなど)を加えることで、地域の医療機関に対して十分なサポートを行っています。沖縄県は長寿県である一方で生活習慣病予備群も多く存在しています。医療ビジネスを通して地域医療、ひいては県民の健康生活上に貢献したいと思っています。

リース物件の適正処理は物件の所有者であるリース会社の社会的責務です。三菱UFJリースではこの責任を重視して、リース終了後、いわゆる物件の出口部分において、さまざまな取り組みを実施しています。中古物件として利用できるものはリユースを徹底しています。

MULグループ内の中古機器専門商社が中心となり、リユースを推進し、資源の有効活用を実践しています。加えて、リユース・リサイクルを行った後に残る廃棄物についても、適切な廃棄が行われるよう厳格な管理を実施しています。

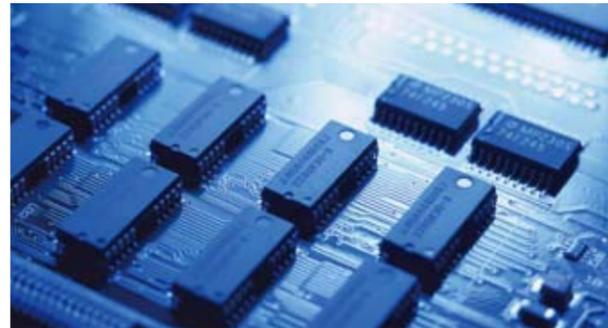
三菱UFJリースグループは、リースビジネスを通じて循環型社会の実現に貢献するため、3Rを推進していきます。



三菱UFJリースグループの 中古機器専門商社



MULエコビジネス株式会社
リースが終了したPCやOA機器のリユース・リサイクルを行っています。



ダイヤモンド・イクイップメント株式会社
中古半導体製造装置の買取・販売をグローバルに展開しています。



株式会社ユーマシン
中古工作機械の買取から販売までをトータルに手がけています。



エム・キャスト株式会社
中古医療機器の買取・販売を行う業界トップクラスの専門商社です。

■ リユース・リサイクルの事例紹介：MULエコビジネス株式会社

MULエコビジネスは、三菱UFJリースグループのリース・レンタル終了後の情報機器（PC、モニター、プリンター、コピー機など）をリユース・リサイクルする会社です。2010年度は約22万台の処理を実施し、うち約8割についてリユース（再販）を行いました。残りの2割の機器についても手作業で解体を行い、メモリー、基板、CPUなどのパーツごとに仕分け、素材として販売することでリサイクルを実施しています。最終的に廃棄することとなった物は受入物件全体の重量（梱包材を含む）の内、5%未満ですが、それについてもリサイクルを促進している処理業者に処分を委託することで、ほぼゼロエミッションを実現しています。適切に処理を行うため、物件の受入からリユース・リサイクルまでの一連の処理は、受入直後にすべての機器に貼付するバーコードを利用したシステムにより集中管理を実施しています。さらに、情報セキュリティを重視し、入庫後すぐにお客さまの貼付されたシール類を剥離し、HDDのデータは信頼性の高い消去ソフトを用いて即日消去（消去できないものは物理的破壊）を実施するなど安全に関する意識の徹底を図り、廃棄物処理以外のすべての作業は外部委託せず自社内で一貫作業しています。

MULエコビジネスの業務の一部

■ 受入
毎日約800台の情報機器を受け入れていますが、受入物件は内容確認後、1台ずつバーコードを発行して貼付。このバーコードに基づき徹底した個体管理を行い、精度の高い在庫管理を実現しています。



物件受取

VOICE 担当者の声



MULエコビジネス株式会社 所長代理 **橋本 和也**

情報物件を取り扱うにあたっては、コンプライアンスに基づいた適正処理を大原則としています。現場ではチームワークを重視し、お互いに声を掛け合いながら作業を行っています。これにより作業効率が上がり、ミス防止や安全確保にも役立っています。また、チームごとの会議などで出された現場の声を大切に、業務手順やシステムの改善に活かしており、社員の士気向上に繋げています。今後もMULエコビジネスでは業務を通じてお客さまへ安全・安心をご提供するとともに、さらなる環境負荷低減に努めていきたいと思っています。

■ データ消去
PCをデータ消去専用サーバーにネットワーク接続し、HDD内のデータを上書き消去します。消去ができないHDDは物理的に破壊し、情報漏えいを防止します。

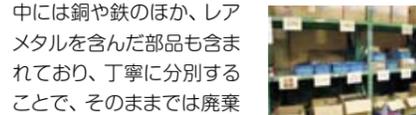


データ消去



HDDの物理的破壊

■ 解体作業
再販することができない機器は手解体で物件のパーツごとに仕分けし、素材として販売。機器の中には銅や鉄のほか、レアメタルを含んだ部品も含まれており、丁寧に分別することで、そのままでは廃棄物になってしまうものも資源としてよみがえります。



手解体後に仕分けされた状態

■ 廃棄物処理

リユース（再利用）することのできない物件は、廃棄物処理法をはじめとする法令などに基づいて適正に廃棄を進めます。三菱UFJリースでは、規程に基づき厳格に選定した廃棄物処理委託会社に、リース終了物件の処理を委託しています。選定に当たっては、実際に現場を訪れてヒアリングや現地調査を実施していますが、経済産業省作成のガイドラインや法令などをベースにして制定している60を超えるチェック項目は、財務状況や保有設備、リサイクル率から、地域との調和や安全対策にまで及んでいます。また定期的に現場を視察して法令を遵守した適正な運営が行われているかを確認しており、厳格な管理により適正廃棄に取り組んでいます。

VOICE 担当者の声



MULビジネス株式会社 管財業務部 課長代理 **西澤 知彦**

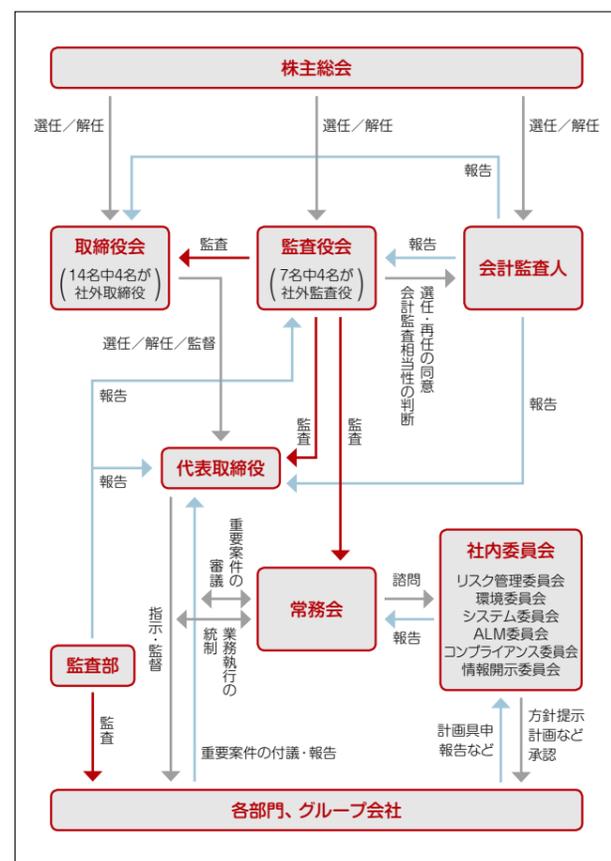
物件の適正処理を確かなものとするため、廃棄物処理委託会社の担当者へのヒアリングや処理現場の現地調査を行っています。実際に現場に足を運んでみると、リサイクルを促進し最終廃棄物を削減するため、また環境への負荷を最小とするため、さまざまな努力がされていることがわかります。リースビジネスを行う上で物件処理は必須ですが、処理委託会社と信頼関係を築き、お互いにとって有効な意見交換を行うことで、さらなるリサイクルの促進と適正廃棄を進めていきたいと考えています。

三菱UFJリースのCSR

コーポレート・ガバナンス

三菱UFJリースは、ステークホルダーに対して企業責任を明確化し、透明かつ健全な経営を実現するため、コーポレート・ガバナンスの強化に継続的に取り組んでいます。取締役は14名で、そのうち4名は社外取締役を選任しています。取締役会は定時開催に加え、臨時取締役会を機動的に開催し、迅速かつ的確な意思決定を図っています。また、執行役員制度を導入しており、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離することで役割と責任を明確にしています。執行役員は取締役との兼務9名を含む26名です。取締役の業務執行に対して公正な監督機能を維持する監査役会を設置しており、監査役7名のうち4名は社外監査役で構成されています。監査役は会計監査人・内部監査部門などと連携し、取締役の業務執行を厳正にチェックしています。

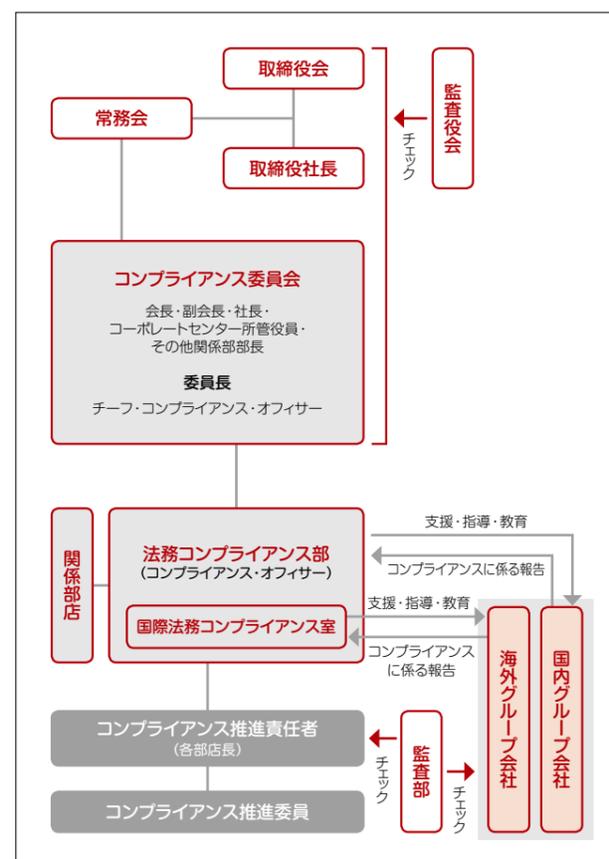
■ コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンス体制

三菱UFJリースでは、株主や社会から信頼を得るための基盤として、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つとして位置付けています。コンプライアンスの徹底状況を定期的に把握・確認するために、常務会の諮問機関である「コンプライアンス委員会」を3ヶ月ごとに開催し、コンプライアンスの強化と確立に努めています。法務コンプライアンス部所管役員が全社的な統括責任者である「チーフ・コンプライアンス・オフィサー」を務め、法務コンプライアンス部が各店舗に対してコンプライアンスの支援・指導・教育を実施。その実施状況については監査部が定期的にチェックします。また、法令・企業倫理などの違反によるコンプライアンス・リスクを抽出して発生頻度と影響度合いを分析した「コンプライアンス・リスクマップ」を作成し、コンプライアンス体制の維持・強化に活用しています。

■ コンプライアンス体制図



コンプライアンス意識の向上

社員のコンプライアンス意識を高めるため、定期的にさまざまな研修を行い、コンプライアンス意識の向上に努めております。新任管理職や新入社員向けの基礎研修では、法務コンプライアンス部が中心となり、各階層に応じたテーマを設定して研修を行い、コンプライアンス意識の徹底を図っています。日常業務におけるコンプライアンスの実践・推進は、各店舗のコンプライアンス推進委員が中心となって当たります。推進委員は年1回全社で実施する「コンプライアンス推進委員研修」を受講し、インサイダー取引規制の再確認や、貸金業法をはじめとする関係法令の遵守などコンプライアンスにおける重点テーマについて確認を行います。この推進委員研修の後、推進委員が各店舗のメンバーに研修内容を説明するとともに、事例に基づき身近なコンプライアンス問題について話し合うようにしています。また、社員のコンプライアンス意識について、e-ラーニングによるコンプライアンスセルフチェック、知識習得テストなどを3ヶ月ごとに実施しています。さらに、一部業務については法務コンプライアンス部が各店舗を訪問し、業務運営状況を確認してコンプライアンスの徹底に取り組んでいます。

法務勉強会

業務に関連の深い法令の留意事項や、法令改正のポイントなどをテーマに、若手の営業担当者を主な対象とした自由参加型の勉強会を開催しています。研修を通じて法令への理解を深め、コンプライアンスの徹底を図ることを目指しており、2010年度は6回実施しました。



法務勉強会

IFRS (国際会計基準) 対応

現在、国際会計基準審議会が進めているIFRS (国際会計基準) の改訂項目にリース会計が含まれています。三菱UFJリースは、(社)リース事業協会の主要メンバーとして、リース会計基準策定のプロセスにおいて、我が国のリース事情を説明し、意見表明を行っています。また、社内にIFRS室及びIFRS対応プロジェクトチームを設置。IFRS改訂による会計・情報システムなどへの影響調査を進めるとともに、IFRSに関連したお客様のファイナンスニーズに対し、的確なソリューションを提供できるよう体制を整えています。

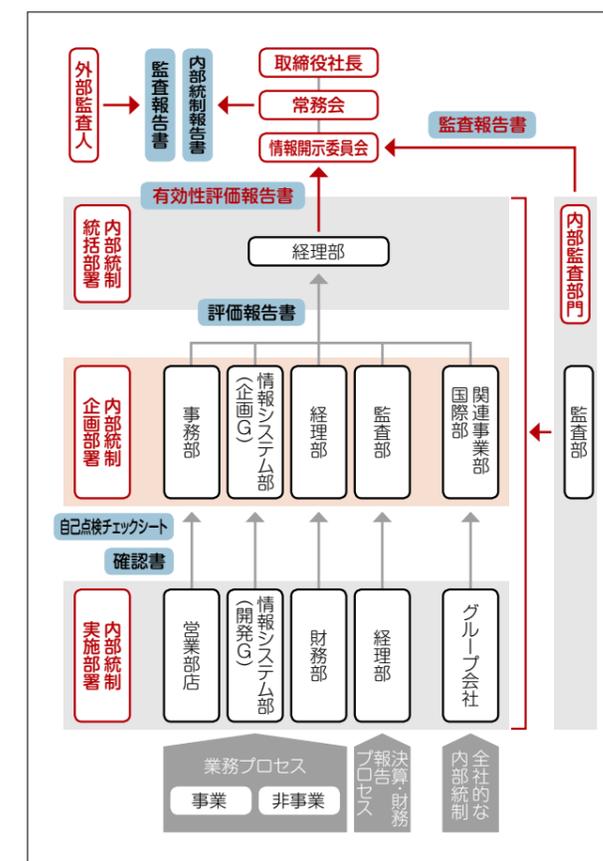
内部統制システムの対応

業務が適正かつ効率的に実行されるよう、内部統制の整備を行っています。各店舗は、内部統制統括部署である経理部に、内部統制の実施状況を定期的に報告。内容については監査部がチェックしています。経理部は四半期ごとに、内部統制実施報告を情報開示委員会に報告し、監査法人に提出します。業務プロセスは文書化を推進し、財務報告の信頼性向上に努めています。こうした内部統制システムの整備は、2008年度より適用された金融商品取引法 (J-SOX法) に則って実施されています。また、「内部統制ハンドブック」を作成し全社員に配布するなど、内部統制への理解を深め、日々の業務で実践できるよう取り組みを行っています。



内部統制ハンドブック

■ 内部統制図

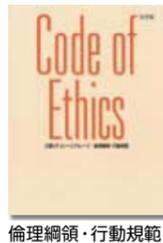


三菱UFJリースのCSR

グループマネジメントの推進

三菱UFJリースグループでは、グループ全体でお客さまや社会からの期待と信頼に応えるために、事業におけるグループ全体の最適化を追求するとともに、内部統制やコンプライアンスの面においてもグループマネジメントの強化を図っています。グループ全体で共有すべき基本的な価値観や倫理観をまとめた「三菱UFJリースグループ倫理綱領・行動規範」をグループ全社員に配布し、高い意識を持って業務の実践に当たるように努めています。

また、グループ内を横断して、会計基準、情報セキュリティ、内部監査などのテーマごとに勉強会や情報連絡会を開催。ノウハウや情報を共有化し、各社の課題に対して忌憚なく意見を出しあうことで、CSR活動のさらなる充実に取り組んでいます。



倫理綱領・行動規範

■ 倫理綱領

三菱UFJリースグループの倫理綱領は、グループとして共有すべき基本的な価値観や倫理観を定め、グループの役員・社員等の基本的な指針とするものです。

1. 信頼の確立

グループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、情報管理を徹底するとともに、企業情報の適時適切な開示を含め、健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からの揺るぎない信頼の確立を図ります。

2. お客さま本位の徹底

常にお客さま本位で考え、十分なコミュニケーションを通じて、お客さまのニーズに最も適合する商品やサービスを提供し、お客さまの満足と支持をいただけるよう努めます。

3. 法令等の厳格な遵守

あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業活動を遂行するとともに、グローバルに展開する企業グループとして国際的に通用する基準も尊重します。

4. 人権および環境の尊重

お互いの人格や個性を尊重するとともに、人類共通の資産である地球環境の保護を重視して、社会との調和を図ります。

5. 反社会的勢力との対決

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度を貫きます。



グループ連絡会（法務）の様子

反社会的勢力に対する基本方針

三菱UFJリースグループでは、反社会的勢力との関係の遮断・排除を徹底しており、その方針を明文化した「反社会的勢力に対する基本方針」をホームページでも公開しています。役職員一同この基本方針を遵守することにより業務の適切性と安全性の確保に努めるとともに、今後も反社会的勢力との関係遮断の取り組みを積極的に推進していきます。

■ 反社会的勢力に対する基本方針

三菱UFJリースグループは、次のとおり反社会的勢力に対する基本方針を定め、役職員一同これを遵守することにより、業務の適切性と安全性の確保に努めます。

1. 組織としての対応

反社会的勢力に対しては、倫理綱領・社内規定等に明文の根拠を設け、経営トップ以下、組織全体として対応します。また、反社会的勢力に対応する従業員の安全を確保します。

2. 外部専門機関との連携

平素から、警察、暴力追放運動推進センター、弁護士等の外部の専門機関と緊密な連携関係を構築することに努めます。

3. 取引を含めた一切の関係遮断

反社会的勢力に対しては、取引関係を含めて、一切の関係を遮断します。

4. 有事における民事と刑事の法的対応

反社会的勢力による不当要求を拒絶し、必要に応じて民事および刑事の両面から法的対応を行います。

5. 裏取引や資金提供の禁止

反社会的勢力との裏取引は絶対に行いません。反社会的勢力への資金提供は絶対に行いません。

危機管理体制

三菱UFJリースでは、事故や障害、自然災害及び人為災害が発生した際に、経営に与える影響を最小限にとどめるよう対応方針を明確にした上で、「危機管理規程」「災害対策規程」、及びそれらに対応するマニュアルを整備しています。危機事象や災害発生時にはその状況に応じて機動的に対策本部を設置し、予め取り決めた部署ごとの役割分担に則って即応する体制をとっています。また、災害時における実践的なBCP（事業継続計画）を整備するなど、危機管理体制の一層の充実を図っています。

■ 危機管理方針

三菱UFJリースグループは、危機発生時においても社会からの信頼を守ることを最優先し、以下の行動方針を基に、意思決定、行動判断を行うこととする。

■ 企業として求められる責任を果たす

三菱UFJリースグループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、関係者の利害に関わる情報を積極的に開示するなど、企業として求められる責任を果たす。

■ コンプライアンスを徹底する

法令を厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業姿勢を示す。

■ お客さま、株主さま、社員との継続的なコミュニケーションに努める

危機発生時においても、お客さま、株主さま、社員との継続的なコミュニケーションに努め、相互の信頼関係を維持する。

■ 危機区分と対応態勢

危機区分	危機の状況	対応態勢
警戒事態	対応の遅れや誤りにより「危機事態」に発展する可能性のある状況	主管部店対応
危機事態	業務の著しい遅延や中断、及び、企業の存続が危ぶまれる信用失墜の危険性が高まった状況	危機管理対策本部 (本部長：主管部店所管役員)
非常事態	「危機事態」の中でも経営・業務への影響が特に大きく、社長の意思決定が必要な状況	危機管理対策本部 (本部長：原則、社長)

■ 危機対応のフロー

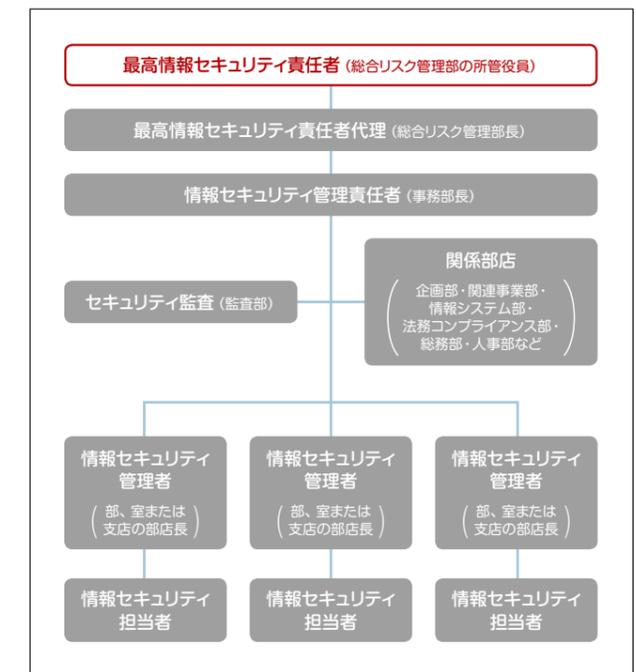


情報セキュリティへの対応

三菱UFJリースでは、お客さまの個人情報をはじめとするさまざまな情報の保護の重要性を認識し、情報セキュリティ管理の徹底と個人情報保護に関する管理体制の強化に取り組んでいます。

情報セキュリティ管理規程及びマニュアルでは、セキュリティポリシー、情報資産の重要度の区分、利用・管理・廃棄のルールなどを定めています。また電子メールの誤送信防止システムや印刷物・記録媒体管理ツールの導入、またお客さま向けWebサイトにおけるセキュリティ保護強化といった情報セキュリティ環境の整備も併せて行っています。さらに、これらの取り組みの一環として、内閣官房情報セキュリティセンターが実施している情報セキュリティ月間においても賛同企業として登録を行い、より一層の情報セキュリティに関する意識向上に努めています。個人情報保護についてはホームページへ個人情報保護方針を掲載するとともに、法令に基づいた適切な取り扱いを徹底するため「個人情報保護規則」を制定し、情報の入手・管理方法について規定しているほか、社員教育用の「個人情報保護マニュアル」も整備しています。これらの施策とともに、派遣社員を含む全社員を対象に年4回のe-ラーニングを使った理解度チェックや情報セキュリティ監査を実施するなど、継続的な社内教育を通じて情報セキュリティ管理体制の定着を図っています。

■ 情報セキュリティ管理の組織



お客さまに最適なソリューションを。



Business Link 商賈繁盛



上海商談会



産業とくらしのグランドフェア2010



2010 日中省エネ・環境ビジネス マッチング

基本的な考え方

三菱UFJリースは、お客さまからの信頼にお応えすること、またお客さまにベストソリューションをご提供することを、経営理念に掲げております。

お客さまとの対話の中からニーズや課題をくみ取り、それにお応えする最適なソリューションをご提供できるよう努めてまいります。

■ お客さま接点の強化

三菱UFJリースはさまざまな商談会・展示会への参加を通じて、お客さまとの接点を強化しています。主な出展先は以下の通りです。

□ Business Link 商賈繁盛

2011年2月に、幕張メッセにて三菱UFJフィナンシャル・グループ主催の大規模商談会「第8回 Business Link 商賈繁盛」が開催され、当社は主催者の一社として出展しました。今回は「日本の創造力。新たな成長力。」をテーマに、海外・環境・医療の3つのテーマエリアが設置され、約2,400社の企業が参加。海外の企業や政府機関からの参加も数多くあり、計5,000件以上もの商談が行われました。

□ 上海商談会

三菱UFJリースは、2010年9月に三菱UFJフィナンシャル・グループが主催する「MUFG上海商談会」に出展しました。この商談会には、約300社の日系企業や現地企業が参加。出展ブースでは、企業やサービスについての紹介が行われました。また、個別商談会や各種セミナーも開催され、開催期間中には多くの来場者があるなど盛況となりました。

□ 産業とくらしのグランドフェア2010

2010年7月、幕張メッセで2日間にわたって「産業とくらしのグランドフェア2010」が開催されました。メーカーなど約500社が出展したこのイベントでは最新鋭の機器や資材の展示が行われ、約2万名の来場者が訪れました。当社は工作機械のリース相談窓口としてブース出展を行い、多くのお客さまにお立ち寄りいただきました。

□ 2010 日中省エネ・環境ビジネスマッチング

三菱UFJリースは日本貿易振興機構（JETRO）が中国・広州市（広東省）で開催した商談会「2010 日中省エネ・環境技術ビジネスマッチング（広東）」に初出展しました。この商談会は、日本の環境・省エネ技術を中国の企業に広く紹介することを目的として毎年秋に開催されているもので、省エネ・環境分野に強みを持つ企業34社が出展しました。金融機関で唯一の参加となった当社には、環境に関心の高い来場者から多数の質問が寄せられました。

VOICE Business Link 担当者の声



営業統括部 課長代理
宮崎 明大

「Business Link 商賈繁盛」では、数多くのお客さまとご商談させていただき、当社のさまざまな商品サービスのご紹介を行いました。今回の商談会では、当社の環境分野におけるワンストップサービスの提供をテーマにしたブース作りを行い、当社の環境への取り組みを強調したものでした。そこで改めて感じたことは、「環境」に対するお客さまの関心は益々高まっているということでした。お客さまとの交流を通じて、当社への期待を確認することができ、大変有意義な機会となりました。お客さまの声は当社にとって非常に貴重な情報です。当社サービスのさらなる充実に向けて、お客さまの生の声を聞くことのできるこのような機会をこれからも大事にしていきたいです。

■ e-Leasing Direct (イーリーシングダイレクト)

e-Leasing Direct は、見積りから契約、満了処理まで、リース契約に必要な一連の手続きをWEB上ですべて実現することのできるサービスです。お客さまがご利用のPCから簡単に契約・請求などの手続きや各種情報の確認ができ、業務効率の向上に効果的です。

また、電子文書により長期保管でき、書籍保管コストの削減にも有効。「いつ」「誰が」「何を」したかが記録に残るので、内部統制の強化にもつながります。

お客さまのご要望や会計制度の変更にもいち早く対応し、随時バージョンアップを実施しています。

■ 海外事業進出サポート

グローバル化が進む中で、日本企業の海外進出は今後もますます加速していくことが予想されます。三菱UFJリースグループでは、お客さまの海外事業進出をサポートするために、米国やアジアを中心とした海外拠点の設置及び現地企業との業務提携を推進し、グローバルネットワークの拡充を図っています。

現地法人では日本人スタッフがお客さまのニーズに合わせてきめ細かくサポートし、それぞれの国に対応した各種ファイナンスサービスをご提供します。

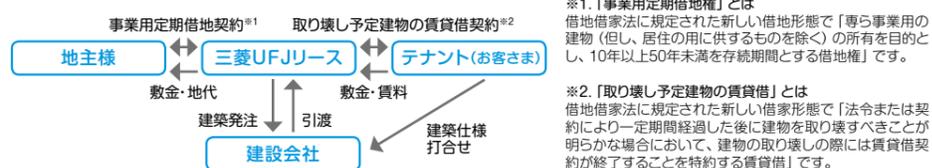
■ シンフォニー（建物リース）

事業用定期借地権を利用して土地所有者から借り受けた土地に、お客さまが希望する建物を建ててまるとリースするのが、三菱UFJリースの建物リース「シンフォニー」です。

当社では、1992年の法改正で事業用定期借地権が認められて以降、本サービスを積極的に推進してきました。これまでに多店舗展開を行う商業施設やショールーム、複合商業施設、物流・配送センターをはじめ、多くの実績を積み重ねています。

お客さまは、土地の造成、建設・設計、敷金や土地の賃料など費用のほとんどをまとめてリース料として月々分割して支払うことになるので、初期投資における費用負担の軽減を図ることができます。また、ファイナンスの提供にとどまらず、企画段階から、土地所有者や行政との交渉、施設の設計・維持管理を行う会社の選定・アドバイスまで、トータルにきめ細かなサービスをご提供します。

■ シンフォニーのスキーム



■ コーポレートサイトをリニューアル

三菱UFJリースは、より便利にご利用いただきやすいホームページを目指して、2010年10月1日にコーポレートサイトをリニューアルしました。ページ上部に文字サイズ変更ボタンを配置したことに加えて、ページの横幅を拡大したことで、よりご覧いただきやすくなっております。今後もお客さまの声を取り入れながら、ホームページのさらなるブラッシュアップを図ってまいります。

〈主な変更点〉

商品ページの検索性を向上

お客さまの業種やニーズに合わせて商品・サービスを検索できるように、商品ページの導線を再構築しました。

初めての方向けコンテンツを設置

初めて当社のホームページを訪れるお客さまや、リースについてよくご存じでない方にもご理解いただけるように、リースの基礎知識や事例紹介をまとめた「初めての方へ」ページを設けました。

専門用語集を設置

当社の事業に関連する専門用語をまとめた「専門用語集」を設置しました。また、商品ページの説明文中から「専門用語集」へのリンクを設定し、簡単に参照できるようにしています。

■ e-Leasing Direct

電子保管をすることで、さまざまなメリットが生まれます。

- 大量の文書を保管するスペースの確保や保管コストの削減につながります。
- 検索・閲覧が容易になることで、欲しい情報を即座に入手でき、スムーズな業務遂行ができます。

保管コストの削減 業務効率の向上

- トレーサビリティが行いやすくなるため J-SOX法に代表される内部統制の強化にも有効です。
- タイムスタンプにより電子文書の長期非改竄による完全性の証明ができます。

内部統制の強化 電子文書の長期保管

■ シンフォニーのメリット

- ・初期投資の軽減
- ・キャッシュフロー負担の軽減
- ・コスト把握が容易
- ・複数の地主様との交渉が容易
- ・建物の所有に伴う管理事務が簡素化



三菱UFJリース コーポレートサイト
<http://www.if.mufg.jp/>

積極的なコミュニケーションを通じて、信頼される企業に。

一人ひとりが能力を発揮できる、働きやすい職場づくり。

基本的な考え方

三菱UFJリースは、株主・投資家のみなさまからの信頼と期待にお応えするため、企業価値の向上を図り、株主還元を重視するとともに、経営や事業活動に関するご理解をより深めていただけるよう、適時・適切な情報開示と積極的なコミュニケーションに努めています。

IR活動の目的と基本方針

経営方針、事業戦略、事業活動、財政状況などに関する情報を、正確、迅速、公平、積極的かつ継続的に提供することで、株主、投資家のみなさまから信頼と適切な評価を得ることをIR活動の基本方針とし、IRポリシーを定めています。この方針に基づき、株主や投資家のみなさまとさまざまなコミュニケーションを図り、長期的な信頼関係を築いていきます。

IRポリシー（概要）

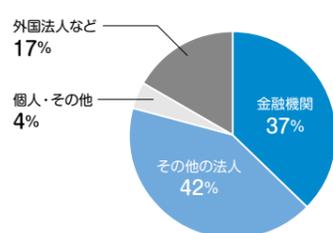
1. IR活動の目的と基本姿勢
2. 情報開示の基準
3. 情報開示の方法
4. 将来見通しについて
5. 未公開の重要情報について
6. 沈黙期間

株主還元と企業価値の向上

三菱UFJリースは、株主還元の充実と持続的な企業価値向上に努めることで、株主や投資家のみなさまのご期待に応えていきたいと考えています。

2011年3月期の配当は前期比2円増配の50円と、12期連続の増配となりました。

所有者別株式数比率



一株当たりの配当金の推移



株主・投資家とのコミュニケーション重視

三菱UFJリースでは、株主・投資家のみなさまとのコミュニケーションを重視し、決算情報や事業活動に関する情報を、当社ホームページや説明会などを通じてタイムリーかつ適切にお届けしています。また、株主・投資家のみなさまと直接対話する機会として、各種イベントに積極的に参加し、当社の事業に対するご理解を深めていただけるよう努めています。

個人投資家とのコミュニケーション

証券取引所や証券会社が主催するさまざまな個人投資家向けIRイベントに積極的に参加しています。2010年度は、名古屋・岡山・高知・福岡・熊本で会社説明会を開催し、当社の事業についてご説明しました。

このほかにも、年2回報告書を発行するなど、個人投資家のみなさまとのきめ細かなコミュニケーションに努めています。

機関投資家とのコミュニケーション

年2回開催している決算説明会では、代表取締役より国内外の機関投資家に対し決算概要や経営戦略、各種施策などについてご説明しています。決算説明会において機関投資家から寄せられた質疑や要請などについては、積極的に経営に反映させていくことで信頼構築に努めています。また、決算説明会のほかにも、国内外の機関投資家との個別取材やミーティングを実施し、コミュニケーションの活性化を図っています。

基本的な考え方

三菱UFJリースでは、ステークホルダーのみなさまの信頼と期待に応えていくためには、現場に立つ社員一人ひとりが仕事のやりがいと、高い意識を持って日々の業務に当たることが必須だと考えています。そのためには、社員がいきいきと活躍できる職場づくりが重要と考え、キャリア形成やワーク・ライフ・バランスを促進するさまざまな制度を整備するとともに、それらを最大限に活かすことのできる社内風土づくりにも努めています。

ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和を重視し、バランスのとれた働き方ができるように、三菱UFJリースでは、介護休暇やボランティア休暇の整備に加え、職場内外の生活を充実させ、いきいきと働くための全社的な運動「早帰り月間」の実施など、さまざまな支援制度や取り組みを実施しています。2010年に開催した女性向けのキャリア開発プログラムでは、社員が自ら将来のキャリアイメージを描き、仕事やライフイベントについて多面的にとらえるための研修を実施。研修終了時には参加者全員で「自らがロールモデルとなり、コミュニケーションの活性化を推進する」という行動指針を掲げました。

出産・育児支援制度

三菱UFJリースでは、仕事とプライベートの双方を充実させることのできる職場環境づくりの一環として、出産・育児支援制度を設けており、法定休業期間を上回る、産前産後計2年半の休業が可能です。2010年度の産前特別休業利用者は19名、育児休業利用者は41名でした。特に育児休業を利用した人が前年度から大きく増加しました。

また、制度のみならず、安心して支援制度を利用できるように、職場の雰囲気づくりと意識啓発にも注力しています。

ヘルスケアサポート体制

社員の心身両面にわたる健康の維持増進を図る取り組みとして、専門医療機関と連携したヘルスケアサポート体制を構築。24時間健康相談、無料カウンセリング、医療機関紹介、ストレスチェック、メンタルヘルスチェックなどを実施しているほか、各店舗にヘルスケア担当者を配置し、日常的に健康づくりのサポートをしています。

行動指針表彰制度「クレドマイスター」

三菱UFJリースでは、行動指針を体現した取り組みを表彰する制度「クレドマイスター」を設置しています。これは、行動指針を体現した模範的な取り組みを表彰する制度で、優れた取り組みを広く紹介することで全社的な意識の底上げを図るものです。

昨年の選考は、2010年5月～7月にわたり実施。現場での課題改善、地域社会や環境への貢献、新たな事業フィールドへの挑戦など、多くの応募が寄せられた中から、6件が表彰されました。

VOICE クレドマイスター受賞者の声



事務部 チームリーダー
富塚 由美

私たち事務部では、営業現場の業務負担を軽減するために、積極的なコミュニケーションを通して問題点の洗い出しと検証を行い、さまざまな業務改善を推進してきました。また、意見を広く集めるために専用窓口を設け、継続的に課題を把握して改善につなげていく体制も整備しました。クレドマイスターとして表彰していただいたことで、部内では業務改善への意識がますます高まりました。表彰は、これからの活動に期待しているというメッセージだと考え、今後も一層、業務改善への取り組みを進めていきたいと思っています。



女性向けキャリア開発プログラム

産休・育休利用者数について

	産前特別休業	育児休業
2008年度	11名	22名
2009年度	19名	28名
2010年度	19名	41名



クレドマイスター表彰式



新入社員研修

■ 新入社員研修

1年間にわたり配属先での教育と研修を繰り返すことで、業務に必要な基礎知識(ビジネスマナー、問題解決思考・技法、金融経済、会計・税務、法務、財務など)を学びます。

■ 若手層～次期マネジメント層向け研修

社員が自ら高めたい分野を学ぶための制度として、MULビジネススクールをはじめとする各種社内公募制研修を実施しています。内容は、ファイナンス分野を中心に、経営戦略、マーケティング、リスク管理などで構成されています。

■ グローバル人材育成制度

語学力や業務に関する専門知識を基にグローバルに活躍できる人材を育成するため、グローバルビジネススクール、海外トレーニー、語学スクール(英語、中国語)、海外の大学(中国)への派遣などを行っています。

■ メンター制度

新入社員を2年間にわたりサポートする「メンター制度」を実施しています。新入社員とメンター(指導者)が長期的にコミュニケーションをとることで、信頼関係を築き、意識面も含めて継続的なフォローを行います。

■ 階層別 社内研修・トレーニー一覧

研修区分	若手層	中堅層	次期マネジメント層	マネジメント層
社内研修制度	新入社員研修 2年目社員研修 3年目社員研修 関連会社(MULエコビジネス、ユーマシン)研修			
	グローバルビジネススクール(GBS) MULビジネススクール(MBS) リスク&ファイナンス基礎講座			
	メンター育成研修 4年目社員キャリア開発研修 女性キャリア開発研修 人権啓発研修・メンタルヘルス研修	OJT研修 若手人材育成プログラム 女性リーダー養成研修	新任次課長研修(人財マネジメント研修) 新任部長研修 キャリア開発育成プログラム キャリアデザインワークショップ	
外部派遣			語学留学(中国) 国内トレーニー派遣 機械知識習得研修派遣 マーケティング研究会派遣 海外トレーニー派遣(香港、上海、バンコク、その他) 語学スクール(英語、中国語)派遣 MUFG合同研修派遣	ビジネススクール・マネジメントスクール派遣



ユーマシンの実地研修



海外トレーニーの様子

VOICE 海外トレーニー参加者の声



(米国(ボストン)の金融会社に出向)

林 憲一郎

現在はボストンの金融会社で業界分析やポートフォリオ管理、アセット管理などの手法を学びながら、三菱UFJリースとの協業案件のサポートもしています。海外トレーニーに応募したきっかけは、グローバルに活躍できる人材になるため、語学やファイナンスの専門知識を身につけたいと考えたからでしたが、実際のビジネス現場で日々の業務を通じて学ぶことは非常に幅広く奥も深いです。また、ビジネスを通じて、文化面などのバックグラウンドも学び、海外ビジネスに必要なスキルを身につけたいと思い、日夜邁進しています。帰国後は、ここでの経験を活かし、仕事の進め方や交渉など幅広い分野で役立てていきたいと考えています。

VOICE 海外トレーニー参加者の声



(中国(上海)の大学に留学中)

青木 学

お客さまと接する中で、企業の海外ファイナンスニーズの強さ、とりわけ中国を中心とするアジア進出への意欲をひしひしと感じ、海外トレーニーに応募しました。大学には2,500名の留学生がおり、「世界にはこんなにも中国語を学んでいる人達がいるのか」というのが第一印象。中国を含め多くの人と交流し、語学のみならず、歴史観や政治意識、日本の印象など生の声が聞けるのも貴重な体験です。将来は、中国、香港、シンガポールなど、中華圏を飛び回り、ビジネスの拡大に貢献していきたいと思っています。

VOICE 語学スクール参加者の声



株式会社ユーマシン リーダー

相馬 啓宏

業務で中国人の方と接する機会が増える中で、中国語で商談ができる力を身につけたいと感じるようになり、中国語スクールに参加しました。授業時間以外にもほぼ毎日予習・復習をする必要があるなど大変な面もありましたが、同じクラスの仲間たちが非常に学習意欲が高かったので、私自身も「もっと自分を高めよう」とモチベーションが上がり、集中的に学習することができました。スクール修了後も通勤時間などに学習を続け、中国語試験HSK3級に合格することができました。今後も勉強を続け、目標としているビジネスレベルの中国語力を習得したいと思います。

■ 社内公募制度

社員が自らのキャリアを、自らの意思で切り拓くことを可能にする社内公募制度を取り入れています。2010年度はこれまでより対象部店をさらに拡大し、選択の幅を広げました。

VOICE 社内公募制度利用者の声



海外事業部 部長代理

山下 尚志

国内営業部門とコーポレート部門にそれぞれ6年間ずつ在籍し、多くのことを学んできましたが、自分の置かれた状況に安住せず、新たな可能性の幅を広げてみたいと思い、海外事業部への応募を決断しました。これまで海外部門の経験はありませんでしたが、戦略事業分野であり、お客さまからの期待も高いこの分野の最前線で挑戦してみたいという強い思いがありました。海外事業部は、コーポレート部門としての役割や機能を担う一方で、同時に営業としての活動や成果が求められます。しっかりと足跡を残せるよう日々試行錯誤しながら、邁進しています。

■ コース転換制度

社員それぞれの主体的なキャリア形成を支援するため、コース転換制度を設けています。募集は毎年1回行われ、一定の水準を満たした希望者に対してコース転換を認めています。

■ 海外で活躍する社員

三菱UFJリースがグローバルネットワークを拡大していく中で、海外の拠点でも百数十名の出向者及び現地スタッフが活躍の場を広げています。

VOICE 海外で働く社員の声



Bangkok Mitsubishi UFJ Lease Co. Ltd.

人事・総務担当マネージャー

ソムカモン ティアンシン

私は、現地社員の採用・研修などの人事業務、総務業務のほか、コンプライアンス関連などを担当しています。これまでに、マーケティング、経理、人事、総務など、いろいろな経験を積んできました。入社時と比べ、会社の規模も取り扱う商品も広がっているので、仕事を通じて日々多くのことを学ぶことができ、とても充実しています。また、周りの社員もモチベーションが高く、良い刺激になっており、楽しくかつ緊張感を持って仕事ができる環境だと思います。今後もさらに業務の質・スピードを上げ、重要な仕事を任せられるようになりたいと思っています。



留学生同士で相互学習

■ 社内公募制度 / 対象部門

- ・不動産ファイナンス部
- ・不動産プロジェクト部
- ・ストラクチャードファイナンス部
- ・船舶営業部
- ・環境事業部
- ・医療福祉部
- ・海外事業部
- ・産業機械部
- ・オペレーティングリース営業部
- ・機械営業部
- ・サービス事業部
- ・市場開発部
- ・e-ビジネス推進部
- ・ユーマシン
- ・グローバル・アセット・ソリューション
- ・MULビジネス
- ・経理部
- ・総合リスク管理部
- ・リース資産統括部(現 アセットマネージング部)
- ・事務部

■ 三菱UFJリースの海外拠点



地域社会とともに豊かな社会の実現を。

基本的な考え方

三菱UFJリースでは企業市民として地域のみならずの信頼関係を築きながら、地域社会に新たな価値を提供し、豊かな社会を実現することを目指しています。事業活動を通じた社会貢献活動に加え、地域社会の一員として次世代育成支援や、環境や社会と調和した取り組みを積極的に推進しています。

■ 教育を通じた次世代育成支援

□ インターンシップ

三菱UFJリースは、就職活動を控える学生に就業体験の機会を提供するため、2010年7月から9月にかけてインターンシップを実施しました。東京と大阪合わせて計8回実施し、188名の学生が参加。「問題解決力」をテーマに、金融業界の業務を疑似体験した学生からは「業務の流れを体験することで、仕事への具体的なイメージがつかめた」「想像以上に幅広い分野の事業を手がけていることに驚いた」などの感想が寄せられました。

□ ジョブシャドウ

東京都教育委員会、ジュニア・アチーブメント日本との共催で、2010年7月に都立高校生を対象とした職場体験プログラム「ジョブシャドウ」を実施しました。このプログラムは、高校生が社員の影となって半日間ともに行動し、働く姿勢や働くことの意味について学ぶもので、三菱UFJフィナンシャル・グループ全体で約100名、当社には9名の高校生が参加しました。

参加した高校生から「チームで協力することの大切さを学んだ」といった声が聞かれたほか、ペアとなった社員からも「自分の業務について再考するよいきっかけとなった」という感想が寄せられました。

■ 「北九州市中小企業省エネ設備普及モデル事業」に参画

2010年8月に、北九州市が推進する「北九州市中小企業省エネ設備普及モデル事業」に参画しました。この事業は、市、市商工会議所、機器製造業、リース会社が連携して、さまざまな省エネサービスをワンストップで提供するという全国初の取り組みです。当社は、この事業への参画を通じて、北九州市の企業が省エネ設備導入の投資を行う際にファイナンスを提供します。

■ 森林・林業再生プロジェクト

林業の復興とそれによる環境保全や地域振興を目的として、岐阜県森林組合連合会、住友商事等と共同で「森林・林業再生プロジェクト」を開始しました。これは、民間企業の持つ経営ノウハウを活用して持続可能な森林経営の実現を目指すもので、当社からも社員を派遣し、プロジェクト全体のマネジメントや生産技術の効率化、新たな事業モデルの検討などを進めています。

このプロジェクトにおいて、岐阜県中津川市で間伐促進型の森づくりを推進して排出権を生み出す事業をスタートしました。本事業は、森林吸収型とよばれるスキームで、森林を適切に管理することにより、CO₂の吸収量を増加させる仕組みです。このスキームでのJ-VER[®]の認証取得は岐阜県では初めてとなります。排出権の活用にあたっては当社のカーボンオフセットのノウハウを活かし、地球温暖化対策と地域の環境保全に貢献してまいります。

■ PFIの推進

公共施設などの建設から維持運営までを、民間の資金・ノウハウを活用して行うPFI (Private Finance Initiative) は、より質の高いサービスと事業コストの低減を両立できる手法として、活用が広がっています。当社は、日本でのPFIの草創期より積極的にPFIに取り組み、地域の社会資本整備に携わってきました。これまでに44件の実績があり、うち15件は代表企業として事業全体の統括を行っています(2011年3月末現在)。



インターンシップ
テーマに沿って業務を
疑似体験しました。



ジョブシャドウ
ミーティングや会議にも
社員と共に参加しました。



林業の現場
(森林調査の様子)

■ ※J-VER

国内の排出削減・吸収プロジェクトで創出された排出権を認証するために、環境省が設置した制度。

■ ボランティア活動

三菱UFJリースでは、地域社会とのつながりを重視し、地域の方々との連携を深めるためのさまざまな活動を展開しています。2010年度は、社員が社会の一員であるとの認識を持ち、積極的に社会貢献できる人材となるように、新入社員研修にボランティア活動を取り入れました。2月に都内のNPOで5日間にわたって行われた実習では、地域で暮らすさまざまな人々とふれあいながら、地域のために自分たちは何ができるかを考え、活動しました。また、このほかにも全国各地で社員有志による地域清掃や植樹などのボランティア活動を行っています。

東日本大震災に関連して、三菱UFJリースグループで募金活動を実施し、被災地で支援活動を行っているNPO法人ジャパン・プラットフォームに寄付しました。また、会社としても中央共同募金会を通じて義援金を寄贈しました。

VOICE ボランティア実習参加者の声



総務部
小橋 美希

実習を通して学んだことは、ボランティア活動は社会の「横のつながり」が重要だということです。また、相手の立場に立って考えることの必要性も学びました。そして、感情は言葉にしなくても相手に伝わるということを改めて感じました。人とのコミュニケーションにおいては、まず自分から心を開き、相手の立場に立って接することが大切だと実感しました。これらは仕事をしていく上でも大切なことだと思いますので、実習で学んだことを今後の仕事でも心がけていきます。今まではボランティア活動の経験はほとんどありませんでしたが、実習を通じてさまざまな人と出会い、自分の見聞の幅を広げることができ嬉しく思っています。

VOICE NPOご担当者さまの声



特定非営利活動法人
ジャパンプラットフォーム 総務部部長
田口 圭祐様

私たちジャパン・プラットフォーム (JPF) はNGO・経済界・政府のパートナーシップのもと、市民社会からのサポートをいただくことで今までに世界35カ国の被災地・紛争地で支援を行ってきました。東日本大震災では発生から3時間以内に出勤を決定し、支援活動を継続的に実施しています。今回の震災は非常に被害が大きく、さまざまな面から被災者の方々の暮らしを支えていく必要があります。JPFは、これまでに培った現場経験を活かし、物資配布・救急医療・炊き出し・子どもへの教育支援・被災した障がい者への支援などの支援活動を展開していきます。

■ 三菱アジア子ども絵日記フェスタ

三菱UFJリースの加盟する三菱広報委員会は社団法人日本ユネスコ協会連盟などと共同で、アジアの子どもたちがお互いの文化を理解し、よりよい未来を築くために「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を開催しています。第10期(2010年～2011年)は日本を含む24の国と地域から77,338作品が寄せられました。優れた作品は日本各地の展示会で紹介される予定です。

■ 第42回全日本大学駅伝への協賛

三菱UFJリースは大学三大駅伝大会の一つで、大学日本一を決める「秩父宮賜杯 第42回 全日本大学駅伝対校選手権大会」に協賛しました。また、中継車両やヘリコプター、参加者の移動などで発生するCO₂排出量を、開催地である三重県の森林吸収クレジットを使用した当社のサービスによってカーボンオフセットしました。

■ LIGHTOPIA2010

東京駅周辺地区で2010年12月に開催されたイルミネーションイベント「光都東京LIGHTOPIA 2010」に協賛しました。イベントのコンセプトは「地球・環境・平和」。使用される電力はすべて水力発電によるグリーン電力でまかなわれているほか、会場を照らすイルミネーションにはLEDが用いられるなど、さまざまな面で環境に配慮されています。



植樹活動への参加
札幌市で行われた「こまおかの森」
げんき事業には札幌支店メンバー
全員が参加しました。



新入社員研修
(NPOでの活動)



三菱アジア子ども絵日記フェスタポスター



全日本大学駅伝ポスター



LIGHTOPIA2010

環境事業と環境負荷低減に向けた取り組みで持続可能な社会を。

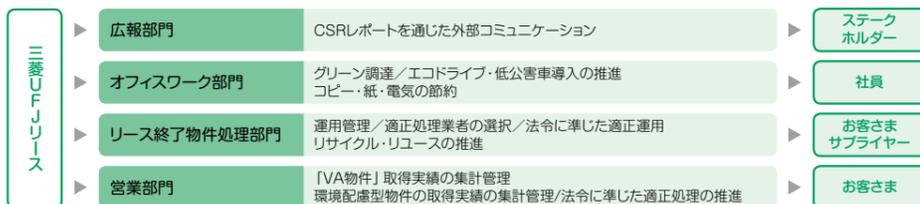
環境に対する考え方

三菱UFJリースでは、モノを扱うリース事業を展開しているという特徴を活かし、環境負荷低減に向けた取り組みに早くから力を入れてきました。事業活動では、環境事業を重点分野と位置付けさまざまなソリューションを提供しています。また、環境マネジメントシステムの充実に努め、グループ会社も含めてISO14001を取得しています。持続可能な社会を実現するため、日々の業務の中で環境活動に取り組んでいきます。

環境方針

1. リース事業を通じて経済的目標を達成するとともに、全ての事業活動において環境保全を推進する。
2. 環境目的・目標の設定・見直し及びマネジメントレビュー等を通じてシステムの継続的改善を図る。
3. 以下の通り汚染の予防に努める。
 - (1) 省資源、省エネルギー、廃棄物の低減等に取り組み、効率の向上、コストの削減を図る。
 - (2) リース終了物件処理等においては、廃棄物の減量化と資源リサイクル及びリユースを推進する。
4. 関係する法規制及びその他の要求事項を遵守する。

環境活動フロー



環境目的・目標

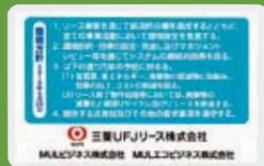
環境目的	部門	2011年度目標	中長期目標
CSRLレポートによる外部コミュニケーション	広報	幅広く情報を収集し、見やすいCSRLレポートを作成。	CSRLレポートの随時レベルアップを図り、環境保全への取り組みなど、CSRの活動状況を具体的にわかりやすく伝える。
省資源・省エネルギー	オフィスワーク	(1) エネルギー使用量の集計・管理。 (2) ハイブリッド車・ダウンサイジング車への入れ替え、エコドライブの推進。 (3) グリーン調達比率、コピー・紙・電気の使用量の集計・管理。	(1) 改正省エネ法・東京都環境確保条例に基づきエネルギー使用量削減を推進。 (2) エコドライブ、低公害車導入の推進。 (3) グリーン調達の推進、コピー・紙・電気の節約。
	営業	営業用(賃貸用)不動産のエネルギー使用量の集計・管理。	改正省エネ法に基づきエネルギー使用量削減を推進。
違法	リース終了物件処理	チェックリストを用いた日常的な運用管理。 (1) 車両の使用。(2) 倉庫照明の電力節約など。	日常的な運用管理の徹底と、運用実績などに応じた改善・見直し。
		(1) チェックリスト・手順書などに基づく適正処理業者の選択。 (2) 改正廃掃法、家電リサイクル法、フロン回収破壊法など、各種法令に準じた適正運用(リース終了物件の不法投棄の防止)。 (3) リース終了物件のリユースの推進。	(1) 厳格なマニフェスト管理。 (2) 厳格な処理業者選定及び優良な処理業者とのチェック&バランス体制確立。 (3) 家電リサイクル法、フロン回収破壊法など、各種法令に準じ、3Rの推進、環境汚染の防止。 (4) 記録管理・処理内容把握によるリユース推進。
廃棄物の低減(リユースの推進)	営業	売却・手解体による資源リサイクル・リユースの推進。	売却率・廃棄量の実績をもとに、効果的な手解体によるリサイクル・リユース体制を検討・推進。
		(1) VA物件・ESCO事業・環境関連ファイナンスに関する機器・設備(環境配慮型物件)の取得実績の集計・管理。 (2) リース・割賦物件に占めるVA物件の実績・取得割合を開示し、積極的な取り組みを推進。	(1) 環境ビジネスを通じて環境負荷低減に貢献。 (2) 再販価値の高い物件、再リース実行確度の高い物件を選定する力の育成と手法の確立により、2次収益の確保、廃棄物の排出削減を推進。

ISO14001 認証

三菱UFJリースでは、早くから環境マネジメントシステムの構築に取り組み、2001年に国際規格であるISO14001認証を取得しました。2010年11月には「第7回サーベイランス審査」を受け、承認されました。



環境方針
http://www.lf.mufg.jp/corporate/csr/management.html



環境方針カード



ISO登録証



環境教育

社員一人ひとりが環境活動への理解を深め、高い意識を持って日常業務の中で実践できるよう、さまざまな環境教育や啓発活動を推進しています。

環境方針を記した「環境方針カード」を全社員が常に身につけるとともに、3ヶ月に一度の「グリーンの日」にはグループ会社を含めた全社員に「環境かわら版」を配布。環境に関する当社の取り組みや社会で話題となっているトピックス、社員が行っているボランティア活動などを紹介し、環境意識の向上や環境活動への参加を推奨しています。

全社員を対象にe-ラーニングを活用した環境教育のプログラムを実施しているほか、リース終了物件処理業務、建設リサイクル法・土壌汚染対策法の対象物件処理業務など、特に環境に密着した業務に従事する社員には、特別の教育・訓練とスキルチェックシートによる認定制度を実施しています。

環境事故・法令違反

2010年度の環境事故・法令違反は0件でした。今後も法令を遵守し、環境意識の向上に努めていきます。

環境会計

環境法令一覧表(一部抜粋)

環境影響	適用される法	管理点
1 廃棄物	廃棄物処理法(第12条3項)	産業廃棄物の運搬・処分を他人に委託する場合は、定められた資格を有する業者であること。
2 廃棄物	廃棄物処理法(第13条の3、第19条の5)	マニフェスト管理(報告・保管などの義務あり)。
3 廃棄物	廃棄物処理法(第16条)	廃棄物不法投棄の禁止。
4 建物工事発注、廃棄	建設リサイクル法	一定規模以上の建築工事(新築・増築、解体など)は、 (1) 知事への届出。 (2) 分別解体・再資源化に関する費用負担。 (3) リサイクル建材の使用などによる再資源化の促進。
5 廃棄物	家電リサイクル法	特定家庭用機器は、 (1) 長期間使用し廃棄物の排出を抑制。 (2) 廃棄する場合は家電リサイクル法により適切に処理。
6 廃棄物	フロン回収破壊法	業務用エアコン・業務用冷凍冷蔵庫・自動車用エアコンなどのフロン内蔵物件は、 (1) 適正・確実な回収・破壊措置。 (2) フロン類の排出抑制(一部、廃棄やリサイクル目的での譲渡に回収依頼書などが必要)。
7 土壌	土壌汚染対策法	土地の所有・投資は、土壌汚染対策法の調査、または指定区域になるおそれのある土地でないことを確認。
8 廃棄物	自動車リサイクル法	使用済自動車のリサイクル・処理は、適正業者によって適正・適法に行われているかを確認。
9 廃棄物	PCB廃棄物特措法	PCB廃棄物は適正処理し、譲渡・譲受は禁止。保管の届出、処分期限、合併・分割の届出などの適正管理。
10 大気	自動車NOx・PM法	事業活動に伴うNOx・PMの排出抑制計画やその実施状況を知事に報告。
11 エネルギーの使用	東京都環境確保条例	特定テナントなど事業者は温暖化対策への協力推進義務。温暖化対策の計画書を作成・提出・推進。

土壌汚染対策

土地の購入や土地を対象とする投資を行う場合には、土壌汚染対策法に準じたマニュアルに基づき、地歴調査などを実施しています。2010年度に購入した土地や、投資などについても、土壌汚染の可能性が低いことを事前に確認しました。

生物多様性に係るガイドライン

三菱UFJリースでは、生物多様性の重要性を認識し、その保全へ向けたさまざまな活動目標を定めた「生物多様性に係るガイドライン」をまとめています。

当社では、早くから持続可能な循環型社会実現への貢献を目指して、リース物件の3R[®]や中古機器売買ビジネスなどにより、資源の有効活用と廃棄量低減に取り組んできました。ガイドラインは、こうした取り組みをさらに発展させ、「事業活動を通じた取り組み」や「オフィスワークの中での取り組み」を通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組むためのものです。社内において「環境かわら版」などの環境教育にも取り入れ、啓発を図っています。また、ガイドラインに基づき、森林生態系保全につながるFSC認証紙を積極的に使用しているほか、コピー・紙・電気の使用量削減、グリーン調達、エコドライブを推進するなど多様な環境活動を展開しています。



環境かわら版

環境会計

2010年度の環境会計は、以下の通りです。(単位:百万円)

分類	環境保全コスト	
	主な取り組み内容	2010年度
事業エリア内コスト	公害防止(エコカーリース料)	81
上・下流コスト	引揚機の処分費用	234
管理活動コスト	ISO事務局コスト、環境マネジメントシステム維持運営コスト、CSRLレポート作成コスト、環境教育コスト 他	4

(単位:百万円)

環境保全に伴う経済効果	
主な取り組み内容	2010年度
中古部品売却益(MULエコビジネス)	27

※3R(Reduce・Reuse・Recycle)

リデュース
再リースや転売により製品使用期間を延ばして廃棄物を削減

リユース
再リース、中古機器売買などにより再使用

リサイクル
原材料として再資源化

■ カーボンオフセット



三菱UFJリースのカーボンオフセットのロゴマークです。このCSRレポートの印刷工程（原材料の調達～印刷工程）において発生するCO₂もカーボンオフセットしています。

※排出権にはCER（京都クレジット）、J-VER（オフセットクレジット）、国内クレジットなどの種類があります。詳しくは当社のカーボンオフセットサイトをご覧ください。

■ 契約件数と排出権割当量の推移



■ ESCOの導入事例

徳島市本庁舎及び徳島城博物館

対象施設：徳島市本庁舎及び徳島城博物館

サービス開始：2011年4月

サービス期間：15年

導入効果：【市本庁舎】

省エネ率 ▲20%
(原油換算 ▲170kL/年)
省CO₂率 ▲25%
(▲374トン/年)

【博物館】

省エネ率 ▲27%
(原油換算 ▲34kL/年)
省CO₂率 ▲31%
(▲64トン/年)

主な導入設備：高効率空調用熱源システム

事業者：三菱UFJリース株式会社、株式会社四電工



徳島市本庁舎 徳島城博物館

■ ESCO事業の残高推移



■ VA物件取得活動の推進

循環型社会の実現に向けた環境負荷低減を目指す取り組みとして、三菱UFJリースではリース終了後に転売や再リースなどが見込めるVA (=Value Asset) 物件に注目し、その取得を推進しています。VA物件は、時間の経過による資産価値の劣化が遅く、一般に長期にわたって使用することが可能です。リース終了物件を有効活用することで、廃棄物削減に努めています。

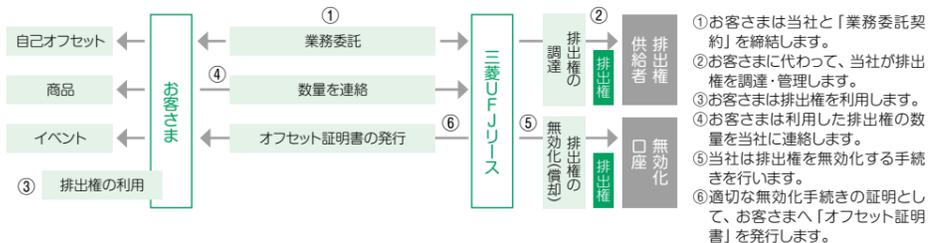
■ カーボンオフセット

カーボンオフセットとは、自らの温室効果ガス(CO₂など)の排出量を把握し、自助努力での削減が困難な部分を、排出権の購入などによって相殺(オフセット)する仕組みです。

三菱UFJリースでは、排出権を利用したいとお考えのお客さまのために、排出権の調達から管理までを全面的にサポートする「オフセットパートナーサービス」をご提供しています。これまでに排出権付き商品の開発、イベントや自社工場・店舗などで排出されるCO₂排出量のオフセットなど、お客さまのご要望に応じたさまざまなカーボンオフセットを実施してきました。排出権も各種取り扱い*、お客さまのご希望に応じてご利用いただけます。

このほか、リース物件の利用によって発生するCO₂排出量を排出権によってオフセットする「カーボンナチュラルリース」もご提供しています。

■ オフセットパートナーサービスのスキーム



VOICE カーボンオフセットサービス担当者の声



市場開発部
オフセットサービス室
野々垣 壮史

オフセットサービス室には2つの事業があります。1つは排出権の創出支援(排出権を作るお手伝い)です。お客さまが省エネ投資などにより削減したCO₂排出量を、排出権にして販売するもので、「省エネ投資の「環境価値」を活用できる」として喜んでいただいています。もう1つが、排出権の調達から管理までを全面的にサポートするオフセットパートナーサービス(排出権を提供するお手伝い)。最近では、国内産の排出権、特に「森林吸収」などのJ-VERの需要が伸びています。お客さまからは、自社と関係の強い地域で作られた排出権を使用したいなどのご要望をいただいています。オフセットサービスは、お客さまのビジネスにも地球温暖化対策にも貢献できるサービスですので、さらに多くのお客さまにご利用いただけるよう努めていきます。

■ ESCO事業

ESCO (Energy Service Company) 事業とは、ビルや工場、ホテルなどの大型施設を対象に省エネルギー化をプランニングして改修工事を実施し、CO₂排出量削減などの環境負荷低減とコスト削減を同時に実現するサービスです。お客さまの施設に応じて、必要な技術、設備、ファイナンス機能、効果保証、保守・管理などのすべてを包括的に提供します。三菱UFJリースはESCO事業者の中でトップクラスの取り扱い実績を誇り、累計取り扱い件数は382件(2011年3月末現在)にのぼります。また、中国において、日本のESCO推進協議会に相当するEMCA(中国省エネルギーサービス産業委員会)に加盟するなど、海外での展開も加速させています。

■ 事業フロー

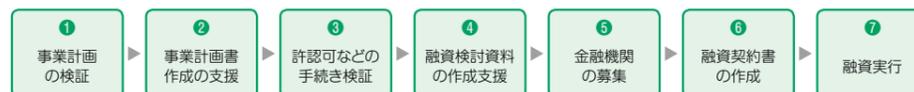


■ 環境ファイナンス

廃棄物処理施設、風力・太陽光による発電設備などの環境ビジネス事業者に対してファイナンスを提供し、事業計画実現をサポートしています。三菱UFJリースが持つ、さまざまなファイナンス手法を活用することで、幅広いニーズにお応えします。

■ 融資実行までの流れ

※標準的な案件の場合(数社での協調融資取り組みの場合)



■ グリーンリースとグリーン電力証書化サービス

グリーンリースとは、リース物件の消費電力の一部を、風力や太陽光など環境への負担が少ない自然エネルギーで発電したグリーン電力でまかなうサービスです。リース契約に対して、自然エネルギーに関する環境価値を証書化した「グリーン電力証書」を割り当てることで、お客さまはグリーン電力を手軽に利用することができます。また、三菱UFJリースは2010年7月にグリーン電力証書発行事業者として認定を受けました。これに伴い、太陽光発電設備をリースで導入されたお客さまから、その使用により生まれた自然エネルギーの環境価値を有償で譲り受け、グリーン電力証書化するサービスを開始しました。三菱UFJリースは、こうして得たグリーン電力証書をグリーンリースに活用することで、環境投資を行いたいお客さまと、グリーン電力の利用によりCO₂排出削減に取り組むお客さまとをつないでいきます。



■ DBJ環境格付

三菱UFJリースは、2011年1月、日本政策投資銀行が実施するDBJ環境格付において「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」とであると認定されました。これに伴い、格付評価に応じて融資条件が決定される「環境格付コミットメント融資枠」を活用した新サービス「グリーンエンジェルプログラム」を開始。空調設備などの省エネ機器や、太陽光発電設備などの環境配慮型設備を対象にファイナンスを提供し、幅広い環境投資ニーズにお応えします。

VOICE DBJ環境格付コミットメント融資枠ご担当者さまの声



株式会社日本政策投資銀行
企業金融第4部 調査役
布施 健様

日本政策投資銀行の「環境格付コミットメント融資枠(エコライン(商標登録出願中))」は、環境に配慮した経営を評価する「DBJ環境格付」を取得したお客さまが行う環境関連事業を対象に、一定期間、一定の金額を上限に、機動的な融資実行を約束する融資メニューで、三菱UFJリースが第1号案件となります。エコラインは、サステナブルな社会の実現に向けた当行の取り組みの一つです。リース業の特性を活かし循環型社会の実現に貢献している三菱UFJリースの取り組みを、当行がファイナンス面でご支援させていただくことで、省エネ機器や太陽光発電などの環境配慮型設備・機器の普及がなお一層進んでいくことを期待しています。

■ 地球環境守り隊

市場開発部のeco検定(東京商工会議所が主催)合格者(エココピーブル)が中心となって「みんなでエコに取り組みよう」というコンセプトのもとに結成したエコユニット「地球環境守り隊」は、東京・名古屋・大阪を拠点に約100名が活動。メンバーはオフィスで身近なエコに取り組んでいるほか、エコキャップ活動、使用済み携帯電話のリサイクル回収、環境省が実施する「ライトダウンキャンペーン」への参加など、さまざまな活動を行っています。eco検定の受験者も増え、部内のエココピーブルは年々増加。2010年12月には東京商工会議所が主催するエココピーブルの交流会「エココピーブルサロンin新木場」で活動事例発表を行いました。名刺にエコユニットのロゴシールを貼ることで、環境に関心の高いお客さまとのコミュニケーションにも一役買っています。

■ グリーンリースとグリーン電力証書化サービスの仕組み



■ DBJ環境格付

企業の環境経営について多面的に評価してスコアリングを行うシステム。当社は2004年9月に業界初となるDBJ環境格付を取得。



環境格付認定証



エコユニット「地球環境守り隊」

グループ全体でCSRを推進しています。

三菱UFJリースグループは、お客さまのさまざまなビジネスシーンに対応した最適なソリューションをご提供するため、リース・レンタルをはじめとする多様なサービスを展開しております。また、ステークホルダーのみならずからの信頼と期待に応えるため、グループ共通のCSR活動に加えて、グループ各社がそれぞれの特色を活かしながら、CSR活動を進めています。



三菱UFJリースグループネットワーク

海外ネットワーク

海外での事業展開に必要な設備投資の金融サポートを行っています。

保険事業・その他

ニーズに応じた事業保険・個人保険の販売やコンサルティングを行っています。

リース・ファイナンス事業

地域や事業分野に特色を持つグループ会社が、多様なニーズにきめ細かく対応します。

中古機器売買事業

半導体製造装置、工作機械、医療機器などの売買を積極展開しています。

オートリース・オートファイナンス事業

オートリースからオートクレジットやレンタカーまで、幅広いサービスをご提供します。

不動産関連事業

不動産のリース・ファイナンス、オーナーローン及びビル賃貸など、多様なサービスをご提供します。

レンタル事業

IT機器、工作機械、計測器のレンタルに加え、IT資産管理サービスもご提供します。



リース・ファイナンス事業

- 株式会社日医リース
- ディー・エフ・エル・リース株式会社
- 神鋼リース株式会社
- カシオリース株式会社
- ひろぎんリース株式会社
- 首都圏リース株式会社
- 中京総合リース株式会社
- 三菱電機クレジット株式会社

オートリース・オートファイナンス事業

- MMCダイヤモンドファイナンス株式会社
- ひろぎんオートリース株式会社
- 三菱オートリース・ホールディング株式会社
- 三菱オートリース株式会社
- 株式会社ジャストオートリーシング

レンタル事業

- ダイヤモンドレンタルシステム株式会社
- テクノレント株式会社

不動産関連事業

- セントラルコンパス株式会社
- ダイヤモンドアセットファイナンス株式会社
- ダイヤモンドアセットサービス株式会社
- 株式会社御幸ビルディング

中古機器売買事業

- MULエコビジネス株式会社
- ダイヤモンドイクイップメント株式会社
- 株式会社ユーマシン
- エム・キャスト株式会社

保険事業・その他

- MULインシュアランス株式会社
- MULビジネス株式会社
- シーエルソリューションマネジメント株式会社
- グローバル・アセット・ソリューション株式会社
- MULプリンシパル・インベストメンツ株式会社

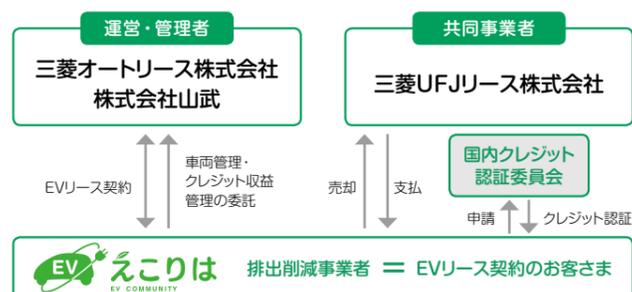
海外ネットワーク

- Mitsubishi UFJ Lease & Finance (Hong Kong) Limited
- Mitsubishi UFJ Lease & Finance (China) Co. Ltd.
- Bangkok Mitsubishi UFJ Lease Co., Ltd.
- PT. Mitsubishi UFJ Lease & Finance Indonesia
- Mitsubishi UFJ Lease (Singapore) Pte. Ltd.
- Mitsubishi UFJ Lease & Finance (U.S.A.) Inc. <Head Office, Los Angeles Branch>
- Mitsubishi UFJ Lease & Finance (Ireland) Limited
- ニューヨーク駐在員事務所
- ホーチミン駐在員事務所

三菱オートリース株式会社

三菱オートリースは、三菱UFJリース及び株式会社山武と共同で、電気自動車(EV)を利用したCO₂排出削減クレジット(排出権)の創出事業を実施しています。2010年10月、この事業の実施に伴い、新たにユーザーコミュニティ「えこりは」を立ち上げました。ここに参加する企業・自治体がEVを使用することで生まれたCO₂排出削減量は、国内クレジット認証委員会よりクレジット(排出権)の認証を受けました。これはEVを対象とする事業から生まれるクレジットとしては国内初の認証取得です。創出されたクレジットは三菱UFJリースに売却し、その売却による収益はEV普及活動や東日本大震災の復興支援活動などに活用していきます。

プロジェクトのスキーム



中古機器売買ビジネス

三菱UFJリースグループでは、お客さまの設備・機器の更新や入れ替えに伴い発生する廃棄物を削減するため、リースビジネスで培ったモノの価値を見極める目とノウハウを活用して、中古機器の売買ビジネスを展開しています。広範な中古機械を取り扱う専門商社をグループ内に有しており、専門知識や中古機器売買ネットワークを最大限に活用することで、お客さまニーズへの対応と物件の有効活用に努めています。対象となるのは、PCやOA機器、工作機械、半導体製造設備、医療機器など多岐にわたります。中古機器を再利用・長期使用することにより環境への負荷低減と、お客さまのコスト削減の両立を目指しています。



MULエコビジネス株式会社



ダイヤモンドイクイップメント株式会社



株式会社ユーマシン



エム・キャスト株式会社

株式会社御幸ビルディング

御幸ビルディングは「快適空間 MIYUKI」をキーワードに、お客さま・社会にとって快適なオフィスビルづくりに努めています。特に環境への配慮を重視し、空調設備や照明器具の省エネ化を実施。最近、設備更新を行った浜松てんまビルでは、空調エネルギーの20%以上の省エネを実現しました。設備の最適化に加え、共用部の電気使用の効率化など運用面での改善も進めています。新築・建替するビルでは環境に配慮した設計を心がけています。2005年竣工の京都御幸ビルでは、窓の外部に日光を遮断する御簾や庇を設置することで、空調の効率化と同時に街並みとの調和を実現しました。また、建替工事中の川崎御幸ビルは、環境負荷低減の取り組みを評価され、川崎市の建築物環境配慮制度においてAランクの評価となります。



京都御幸ビル



室内から見た御簾

MMCダイヤモンドファイナンス株式会社

東日本大震災の発生後、被災地では自動車の燃料となるガソリンが深刻な供給不足となりました。こうした中、復興活動に向け企業が中心となって、被災地に電気自動車を提供する活動が広がりました。MMCダイヤモンドファイナンスも各企業が被災地にお届けするi-MiEV95台をレンタカーとして提供しました。当該車両は現在、被災地域での復興活動に利用されています。また、自社で使用する営業車両にも積極的に電気自動車を導入するなど、環境対応車両の普及に努めています。



被災地を走る電気自動車